

学年と地域、2つの交流

桂川東小学校に確かにある 子どもたちの笑顔の交流



Interview



桂川「ひまわり」
アンビシャス広場

太郎浦 博 代表
Taroura Hiroshi



Interview



桂川東小学校

諫山 秀代 校長
Isayama Hideyo

学校規模の小規模化 「社会性の発達不足」?

120人。

桂川東小学校の全校生徒数です（平成25年1月末現在）。桂川小学校の564人に比べると、5分の1ほどです。

小学生の数の減少は全国的な現象です。文部科学省が行った平成25年度学校基本調査によると、小学生の数は667万7千人で、過去最少となりました。

小学生の数の減少によって、学校規模が小規模化していますが、メリット・デメリットは様々です。特に生活面では、相対的に人と触れ合う機会が減り、子どもたちの「社会性の発達不足」が懸念されています。

そんな調査結果に辟易しながら、桂川東小学校の1日取材させていただきました。

桂川東小学校の 「縦割り活動」

午前中の授業、給食、昼休みが終わり、掃除の時間になりました。掃除道具を持って教室の掃除を始める：かと思いきや、子どもたち

は校舎のあちこちに移動を始めます。

それぞれが向かった場所には、他の学年の子どもたちがいて、みんなが揃ったところで、その場所の掃除を始めます。

「桂川東小学校では、掃除は『縦割り活動』で行っています」と話すのは、諫山秀代桂川東小学校校長。「赤・青・黄の大きなチームから、それぞれ6班に分かれた計18班によって掃除のチームが作られています。1つの班は6人から7人で、6年生をリーダーとして各学年の子どもたちで構成されています。」

掃除の様子をうかがっていると、6年生が他の学年の子ども、特に下級生に対して「ここを掃除してね」など指示をしながら、下級生も元気に応えて掃除に励んでいます。

そんな様子の校舎を巡っていると、廊下の雑巾がけをしていた1年生の1人が「もう掃除したくない」と駄々をこねていました。それを見た同じ班の6年生が「よし、一緒に頑張ろう!」と優しく声をかけると、1年生は「うん!」と笑顔で頷き、6年生と一緒に雑巾がけを続けていました。